

令和3年度 自己評価書

和歌山市立明和中学校

古谷友宏

令和4年2月5日

1 教育目標

人間尊重の精神を基本にして、知・徳・体の調和のある生徒の育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	学校評価アンケートでの「授業が楽しい」「学習内容がよくわかる」が8割以上に。	学校評価のアンケートの「私は、思いやりや優しさの気持ちを大切にしている。」という項目が95%という値である。意識としては、大切さははっきり押さえさせて	体育の実技授業についての、意欲・態度観点A評価を半分以上に。	開放月間時の行事や授業公開による地域への取組の充実で、学校評価アンケートにおいて7割以上の肯定的評価。
重点目標	○指導の工夫・改善と総合的な学力向上をめざす本校の『明和中学校授業づくり』のさらなる充実。	○学級づくりを通し、自分と仲間を大切に、よりよく生きていく力の育成。 ○道徳教育の充実。	○保健体育教育の工夫・改善による心と体の調和的育成。 ○健康安全教育の充実。 ○基本的生活習慣の確立。	○本年度はコロナウイルス感染症のため行事等縮小・中止となり、地域への取り組みの検討。
取組の状況	○各教科担任が「わかる授業」「参加する授業」「楽しい授業」等、主体的・対話的・深い学びをめざし、授業力を高める。 ○各個人の授業力改善に、より効果的な授業スタイルを行うため、定期的に研究授業・提案授業を実施することで、教師の授業力向上による生徒への効果をめざす。	○「自分と仲間を大切に、よりよく生きていく学級」をテーマに、学級づくりの具体的指導方法等を含めた研修を実施し、担任の力量を高める。 ○道徳教育充実のための子供たちに必要な課題を見出し、実際の授業改善に向けての取り組みを進める。 ○学校行事等での目標及び指導方法を明確にする。	○体育学習・保健学習について、校内研修・勉強会を数多く実施し、心と体の調和的発達を図る。 ○養護教諭を中心に健康安全教育の充実を図る。 ○思春期にみられる心と体のアンバランスさの道理を指導する。	○保健便り等の各担当からの便り、ホームページ更新、メールの独自配信等積極的に情報を発信する。 ○学校開放月間の充実を図るとともに、より効果的な学校開放の在り方を検討する。 ○学校評価の取り組みを有効に活かすことで、保護者・地域・学校の信頼関係を深める。
取組の成果と課題（評価結果）	学校評価アンケートの結果を見ると、1・3年生では『授業が楽しい』『学習内容がよくわかる』やや高く、2年生ではやや低い結果である。平均すると70%よりやや上の程度なので、目標の8割には届いていない。 今後も授業改善を継続的に。	『私は、思いやりや優しさの気持ちを大切にしている』という項目において、肯定的評価が95%という値になっている。学校生活では友人関係の問題等も日々発生しているが、意識としては、大切なことはきっちりと押さええている。	体育の授業での『関心・意欲・態度』の観点については、評価が高く、意欲的に授業に参加できている生徒は多いと考えられる。 また養護教諭が保健だよりを毎月配付し、保健委員会と協力して各種啓発のポスターを掲示するなどの活動も継続していきたい。	保護者・地域との連携・協力については、教職員の意識としては、77%が肯定的評価をしている。 本年度は地域学習に取り組むことが出来ていないのにも関わらず、この数字は、保護者、地域方々の協力である。今後とも学校との信頼関係を深めていく。
改善方法	学力の向上は、教師の意識の向上を前提とした授業の工夫・改善、授業力の向上が最も大切で、かつ効果的であることは間違いない。 その考えにたって、本校では『明和中学校授業づくり』を進めてきているが、今後も今の取り組みを継続していければと考えている。	日常の些細な友だち通しのやり取りや教師との関わり、そして学級活動の時間、生徒会の取り組み、そして多彩な多くの行事が生徒の心の発達を支えている。 本校独自の行事も多々あるが、それぞれのねらいを確認しながら、行事の精選も加味し、『豊かな心の育成』に臨んでいきたい。	健やかな体の育成の学校教育の根本は保健体育の授業である。 保健体育教諭の指導力の向上から授業の充実により、生徒の体力の向上、さらには日常生活への自身の健康に向かう力を身につけさせていくことが重要だと考えている。	本校は、地域の伝統文化を肌で感じることのできる非常に立地条件に恵まれている。 今後もこの環境を効果的に生かしながら、地域との協力をさらに前面に出し、現状をふまえた上で、計画を立案・実践していきたい。

3 その他の課題

--